

暮らし向きに関するアンケート 調査結果

2009年2月
株式会社ジーコム生活行動研究所

Marketing & Development
G:COM

1. 調査方法

弊社アンケートモニター「コムネット」に対するインターネット調査

2. 調査対象

福岡県在住の20歳以上の男女

3. 調査時期

平成20年12月22日(月)～29日(月)

4. 調査規模

342サンプル

【標本構成】

性	件数(人)	構成比(%)
男性	162	47.4
女性	180	52.6
全体	342	100.0

居住地	件数(人)	構成比(%)
福岡市内	185	54.1
その他福岡県内	157	45.9
全体	342	100.0

職業	件数(人)	構成比(%)
会社員	112	32.7
公務員・団体職員	12	3.5
会社役員	6	1.8
商工自営業	18	5.3
農林漁業自営	-	-
自営手伝い	1	0.3
主婦専業	91	26.6
パート・アルバイト	56	16.4
学生	14	4.1
無職	24	7.0
その他	8	2.3
全体	342	100.0

年代	件数(人)	構成比(%)
20代	60	17.5
30代	72	21.1
40代	72	21.1
50代	72	21.1
60代以上	66	19.3
全体	342	100.0

未婚	件数(人)	構成比(%)
未婚	88	25.7
既婚	254	74.3
全体	342	100.0

【報告書の見方】

- ・本文及び図中に示した調査結果の数値は百分比(%)で示してある。これらの数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、全項目の回答比率の合計が100.0%とならない場合がある。
- ・複数の回答を求めた質問では、回答比率の合計が100.0%を超えることがある。
- ・報告書中の図表では、コンピューター入力の場合、回答選択肢の表現を短縮している場合がある。

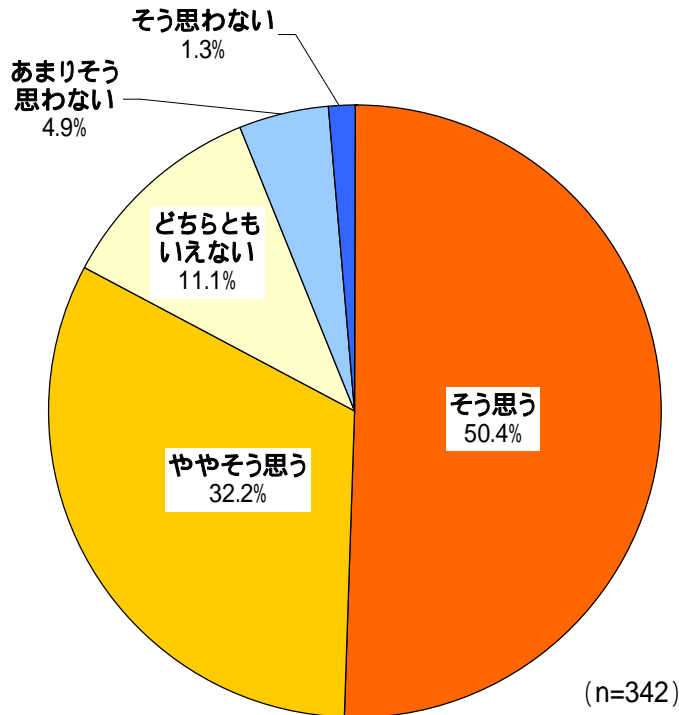
1. 物価上昇の実感

物価の上昇を実感しているのは82.6%

物価上昇の肯定層(「そう思う」と「ややそう思う」の合計)は82.6%で、前月(11月89.0%)に比べて6.4ポイント低下している。

- ・性別で見ると、女性は男性に比べて肯定層の割合が高く、9割に達している。
- ・年代別では、20代と40代は他の年代に比べて肯定層の割合が高く、いずれも9割を超えている。
- ・世帯年収別では大きな違いはみられない。

物価の上昇に対する実感【単一回答】



	調査数	[%]					[%]	
		そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	肯定層	否定層
合計	342	50.4	32.2	11.1	4.9	1.3	82.6	6.2
性別								
男性	162	37.0	37.4	16.0	7.4	2.0	74.4	9.4
女性	180	62.4	27.6	6.7	2.7	0.7	90.0	3.4
年代別								
20代	60	52.7	40.1	3.6	2.4	1.2	92.8	3.6
30代	72	45.0	32.4	12.2	8.1	2.3	77.4	10.4
40代	72	58.6	32.8	3.8	3.1	1.8	91.4	4.9
50代	72	41.8	35.0	17.2	4.7	1.3	76.8	6.0
60代以上	66	54.5	21.2	18.2	6.1	-	75.7	6.1
世帯年収別								
300万円未満	93	46.9	35.3	12.4	3.7	1.7	82.2	5.4
300～500万円未満	77	62.0	26.9	7.2	2.2	1.7	88.9	3.9
500～700万円未満	96	49.4	32.8	11.8	5.1	0.9	82.2	6.0
700万円以上	76	43.9	33.2	12.7	9.0	1.2	77.1	10.2

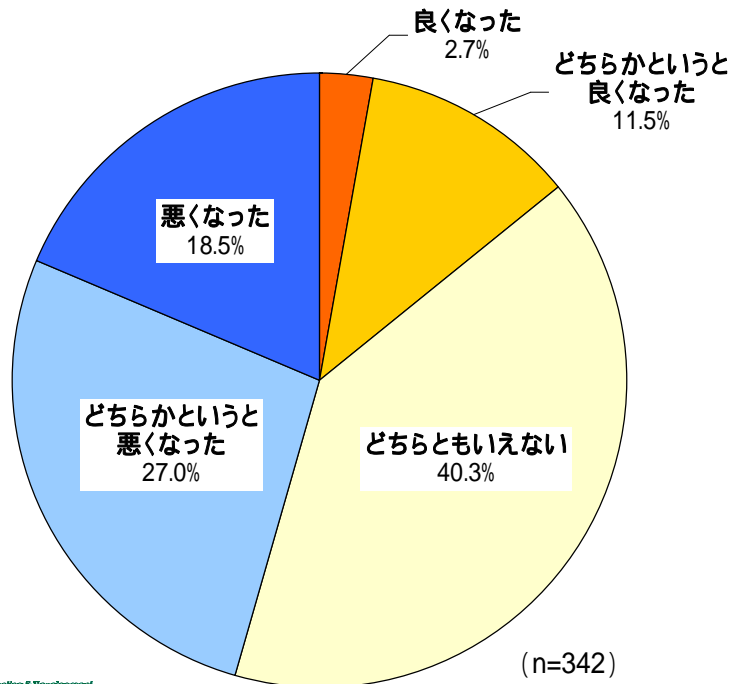
* 肯定層: 「そう思う」「ややそう思う」の合計
 否定層: 「そう思わない」「あまりそう思わない」の合計

“暮らし向き判断指数”マイナス31.3ポイント。引き続き低下傾向

1年前と比較して暮らし向きが良くなった層(「良くなった」と「どちらかという良くなった」という肯定層)は14.2%、暮らし向きが悪くなった層(「悪くなった」と「どちらかという悪くなった」という否定層)は45.5%で、肯定層から否定層を差し引くと-31.3ポイントである。弊社ではこれを“暮らし向き判断指数”と名づけて定期的に調査しているが、2007年6月は-6.8ポイント、同年12月は-9.1ポイント、2008年7月は-23.1ポイントであり、引き続き低下傾向にある。

- ・性別では大きな違いはみられないが、年代別にみると40代以上は30代以下に比べて否定層の割合が高く、5割に上る。
- ・世帯年収別では、年収700万円未満は700万円以上に比べて否定層の割合が高くなっている。

1年前と比較した暮らし向きの変化【単一回答】



	調査数	【%】					【%】		暮らし向き判断指数	
		良くなった	どちらかという良	どちらともいえない	どちらかという悪	悪くなった	肯定層	否定層		
合計	342	2.7	11.5	40.3	27.0	18.5	14.2	45.5	-31.3	
性別	男性	162	2.1	10.2	40.0	26.9	20.8	12.3	47.7	-35.4
	女性	180	3.3	12.6	40.6	27.1	16.5	15.9	43.6	-27.7
年代別	20代	60	3.6	14.4	54.0	21.1	6.9	18.0	28.0	-10.0
	30代	72	6.3	15.8	38.8	26.2	13.0	22.1	39.2	-17.1
	40代	72	0.8	14.2	30.9	28.9	25.2	15.0	54.1	-39.1
	50代	72	-	7.0	43.3	27.7	22.0	7.0	49.7	-42.7
	60代以上	66	3.0	6.1	36.4	30.3	24.2	9.1	54.5	-45.4
世帯年収別	300万円未満	93	3.5	4.8	42.0	22.1	27.6	8.3	49.7	-41.4
	300～500万円未満	77	2.9	11.9	39.7	29.6	15.9	14.8	45.5	-30.7
	500～700万円未満	96	1.2	14.8	34.5	27.3	22.2	16.0	49.5	-33.5
	700万円以上	76	3.4	15.1	46.2	30.0	5.3	18.5	35.3	-16.8

*肯定層: 「良くなった」「どちらかという良くなった」の合計
 否定層: 「悪くなった」「どちらかという悪くなった」の合計

3.暮らし向き悪化の理由

暮らし向き悪化の理由として、“収入減”と“物価高”が多く挙げられている

暮らし向き悪化の理由は、収入は変わらない、または減少しているにもかかわらず物価が上がっているという点が比較的多く挙げられている。中には自分や家族が失業したという回答も見られる。

・30代や40代では、教育費等の負担感も伺える。

暮らし向き悪化の理由【自由回答】

暮らし向き悪化の理由	性別	年代	職業
光熱費や野菜、移動手段が高くなり、逆に給料が少なく貯金があまり出来なくなった。	男性	20代	パート・アルバイト
賞与が減り、年収が減ったのに、公共料金、野菜や肉などの料金が上がった。	女性	20代	会社員
食料品・光熱費などの物価が上がった。お給料が上がらない。ボーナスが下がった。ニュースで暗い話題が多い。身の回りで仕事がないという話を聞く。	女性	20代	会社員
10月末、持家を賃貸に出したが、借り手が見つかず、ローンと社宅の手出し分のダブルパンチになっている。	女性	20代	主婦専業
物価が上がったが給料が上がらない。ボーナスが下がったこと。	女性	20代	主婦専業
出産のため、私が働かなくなったから。	女性	20代	主婦専業
物価はあがっても給料はあがらないから。	女性	20代	パート・アルバイト
自分の収入は上がらないのに、物価がどんどん上がっているから。特に食料品や光熱費の上昇により暮らし向きが悪くなったように感じる。	女性	20代	パート・アルバイト
子供も生まれ物価も上がり、とにかく出費がかさむから。	女性	20代	パート・アルバイト
ボーナスが下がった。	男性	30代	会社員
給料が下がった。	男性	30代	会社員
収入が減ったから。	男性	30代	会社員
収入の減少によって使えるお金が減った。	男性	30代	会社員
賞与が減少した。	男性	30代	会社員
収入は上がらないし、物価は高くなった。	男性	30代	会社員
ボーナスが減った。	男性	30代	会社員
仕事を辞めたが最近の経済の状況は最悪で再就職が難しかった。就職は決まったが来年からの為、短期仕事を探すが中々無く苦勞している。	男性	30代	パート・アルバイト
病気で仕事をやめて、派遣に切り替えたからです。	男性	30代	パート・アルバイト
息子の高校入学、毎月の学費や定期代などが増えたけど、給料は上がらず、物価も上がったため。	女性	30代	会社員
不景気で給料(ボーナス)は少なくなって必要な出費は増えている。	女性	30代	会社員
育児の都合で家庭の収入が減っているのに、子供の保育料や物価の高騰で出費がかさむ。	女性	30代	会社員

3.暮らし向き悪化の理由

暮らし向き悪化の理由	性別	年代	職業
食品の価格が高くなった。電気代も高くなったような気がする。	女性	30代	主婦専業
収入は下がったのに支出が増えているから。	女性	30代	主婦専業
収入減なのに、物価は上昇しているから。また、消費税も上がる可能性が高いのでさらに不安で引き締めないという気持ちになる。	女性	30代	主婦専業
主人のボーナスが減った。食料品の値段が上がった。	女性	30代	主婦専業
給料が増えないのに物価が上がり、出費が増えたから。	女性	30代	主婦専業
結婚して自由に使えるお金が無いので、以前に比べると買い物を躊躇するようになった。家計を預かっている為、何かにつけて節約をしているので、生活が苦しくなった感じがする。物の値段が上がったので、買いたい物を我慢したり、ランクを落としたりしている。	女性	30代	主婦専業
物価が上がっているのに、収入は上がらない。	女性	30代	主婦専業
日常生活品が高くなった。	女性	30代	主婦専業
物価が高い割に、昇給がないため、出費を抑えざるを得ないため。	女性	30代	パート・アルバイト
物価や光熱費が高くなっているし、派遣切りなどの景気悪化があるので、悪くなったような気がする。	女性	30代	パート・アルバイト
仕事が減り、賃金の減少や日用品の物価上昇で日常の暮らしがきつくなったため。	男性	40代	会社員
給与・賞与が悪くなった。	男性	40代	会社員
子供にお金がかかる年齢になり、サービス残業が増え、逆に収入が減った。	男性	40代	会社員
給与が削減された。	男性	40代	会社員
残業や休出が無くなった。	男性	40代	会社員
収入が減った。	男性	40代	会社員
給与は上がらない、支出は増える。	男性	40代	会社員
全体的な物価上昇と上がらない給与、悪いばかりで先行きが見えない景気。	男性	40代	会社員
介護保険料の増加。子供の教育費。	男性	40代	会社員
契約社員としてこれまで仕事をしてきたが、今年に入ってから仕事が激減し収入が半減した！	男性	40代	会社員
昇給率の低下、ボーナス低下、学費等出費増。	男性	40代	会社員
支出(教育費など)の増大。	男性	40代	商工自営業
収入は減少傾向になる中で、家計の負担は重くなるばかり。	男性	40代	商工自営業
収入と物価のバランスが悪くなっている。	男性	40代	その他
収入が減ったのに物価が上がっている。	女性	40代	会社員
自営の会社、特に公共事業が全く悪い。最悪の年でした。	女性	40代	会社員
ボーナスが出ないので。	女性	40代	会社員
亭主が無職になった。	女性	40代	主婦専業
子供の進学。	女性	40代	主婦専業
年収が少なくなったうえ、物価の上昇で。	女性	40代	主婦専業
給料は上がらないのに物価だけが上がり続け、生活にゆとりがなくなった。	女性	40代	主婦専業

3.暮らし向き悪化の理由

暮らし向き悪化の理由	性別	年代	職業
病気でパートに行けなくなったので、家計全体の収入が減った上に、私自身の治療費で家計の支出が増えたから。	女性	40代	主婦専業
派遣のパートを解雇され収入が減り、再就職も決まらない。	女性	40代	主婦専業
家族の解雇により収入がなくなることになり、自分の貯蓄もかなり減って余裕がなくなったこと。物価やガソリンの価格高騰、子供の習い事も値上がりし、家計に悪影響を及ぼしており、レジャーを楽しんだりリラックスできなくなってきたから。	女性	40代	パート・アルバイト
夫の収入が減った。	女性	40代	パート・アルバイト
収入は下がる一方で、子供の教育費や食費は値上げ値上げで支出は増える一方です。今は貯金が出来ない状態で、生活していくのがやっとです。	女性	40代	パート・アルバイト
子どもが大学に進学したため。	女性	40代	パート・アルバイト
物価が上がリ、給料が減った。	女性	40代	パート・アルバイト
主人の給料の減額。	女性	40代	パート・アルバイト
給与は減り物価は上がる。	女性	40代	パート・アルバイト
夫婦共働きでも給料は変わらないのに、物価は上がるし、子どもの成長で支出は増えていだけなので。	女性	40代	その他
給料が下がった。物価が上がった。	男性	50代	会社員
収入が減った。	男性	50代	会社員
物価の値上がりを感じる	男性	50代	会社員
買うものが高くなった。	男性	50代	会社員
金融資産の劣化。	男性	50代	会社員
仕事が少し減っている。	男性	50代	会社員
物価は上がる一方、給料は上がらない。	男性	50代	公務員・団体職員
収入は増えないし、物は高くなっている感じがする。	男性	50代	公務員・団体職員
お金がなくなった。	男性	50代	商工自営業
所得が減った上に物価の上昇で経済的に余裕がなくなってきている	男性	50代	商工自営業
物価が高くなった。	男性	50代	無職
物価の高騰。	男性	50代	無職
給与ダウン。	女性	50代	会社員
収入が少ない、物価、教育費が高い。	女性	50代	会社員
収入が減ったため欲しいものを買えなくなった。	女性	50代	主婦専業
給料が減り、物価が上がった。	女性	50代	主婦専業
物価が上がったから。	女性	50代	主婦専業
食品など物価の値上がりが続いて、家計が苦しくなった。	女性	50代	主婦専業
収入は増えないのに物価が上がったから。	女性	50代	主婦専業
給料は上がらないのに、生活必需品が高くなった。	女性	50代	主婦専業

次ページに続く

3. 暮らし向き悪化の理由

暮らし向き悪化の理由	性別	年代	職業
物価が上がっているにもかかわらず、給料が上がっていないから。	女性	50代	主婦専業
収入は減る、支出は増える。	女性	50代	主婦専業
ボーナスが少ない。生活が不安。なんとなく将来に対して希望が持てない。	女性	50代	主婦専業
収入が減った。	女性	50代	パート・アルバイト
給与は変わらず、物価は上がった。	女性	50代	パート・アルバイト
仕事が減り収入が減った。	女性	50代	その他
物価上昇。	男性	60代	会社員
仕事の量が減ったので、経済的に前よりも豊かでなくなった。	男性	60代	商工自営業
収入が減った。	男性	60代	パート・アルバイト
定年によって、収入が激減した。	男性	60代	パート・アルバイト
物価が高くなった。	男性	60代	パート・アルバイト
食料品、雑貨、電気製品などすべてにおいて値上がりしている。また、この際便乗値上げをした物が多いので不要不急の物は一切購入しない。	男性	60代	無職
自由に使えるお金が少なくなってきている。	男性	60代	無職
使えるお金が減ったから。	男性	60代	無職
金融危機で損失を出したので・・・。	女性	60代	主婦専業
パンや麺が高くなった。	女性	60代	主婦専業
アパートの家賃収入が減った。	女性	60代	主婦専業
何でも値上がりして、収入のないものには苦しいです。	女性	60代	主婦専業
サブプライム問題以降株価が暴落し、外貨預金の元金が目減りしているので、年金暮らしにとっては緊縮財政を強いられている。	女性	60代	主婦専業
生活費が食い込み、預貯金が出来なくなった。	女性	60代	主婦専業
生活水準は変えてないけど、出費が多くなったように感じる。	女性	60代	主婦専業
子供の職がなくなった。	女性	60代	パート・アルバイト
年金生活になり収入は少ないのに様々な物価が高騰しているので厳しい。	女性	60代	パート・アルバイト
毎日の費用と共に、年一回支払うような年会費等が、数千円単位であがっている。	女性	60代	無職

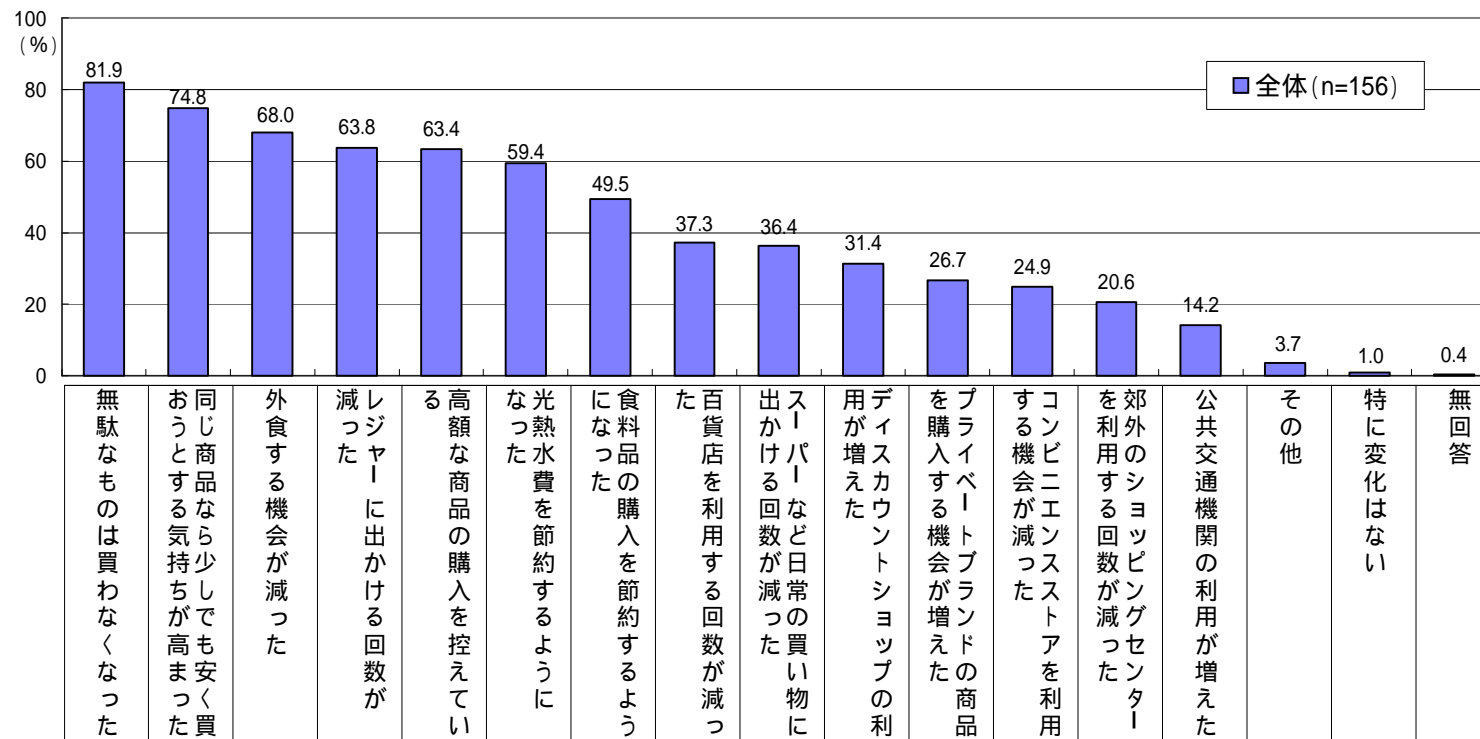
4.暮らし向き悪化に伴う行動の変化

暮らし向きの悪化に伴って「無駄なものは買わなくなった」が8割を超える

暮らし向きの悪化に伴う行動変化では、「無駄なものは買わなくなった」が81.9%で最も高く、次いで「同じ商品なら少しでも安く」74.8%、「外食する機会が減った」68.0%、「レジャーに出かける回数が減った」63.8%、「高額な商品の購入を控えている」63.4%の順である。

- ・性別で見ると、女性は男性に比べて「同じ商品なら少しでも安く」「高額な商品の購入を控えている」「百貨店を利用する機会が減った」の割合が高い。
- ・サンプル数が少ないため参考程度にとどめるが、年代別では年代が上がるにつれて「無駄なものは買わなくなった」、世帯年収別では世帯年収が上がるにつれて「高額な商品の購入を控えている」の割合が高くなっている。

暮らし向きの悪化に伴う行動の変化【複数回答】



4.暮らし向き悪化に伴う行動の変化

物価上昇による行動の変化【複数回答】

		調査数	無駄なものは買わなくなった	同じ商品なら少しでも安く買おうとする気持ちが高まった	外食する機会が減った	レジヤードに出かける回数が減った	高額な商品の購入を控えている	光熱水を節約するようになった	食料品の購入を節約するようになった	百貨店を利用する回数が減った	スーパーなど日常の買い物に出かける回数が減った	ディスカウントショップの利用が増えた	プライベートブランドの商品を購入する機会が増えた	コンビニエンスストアを利用する機会が減った	郊外のショッピングセンターを利用する回数が増えた	公共交通機関の利用が増えた	その他	特に変化はない	無回答
合計		156	81.9	74.8	68.0	63.8	63.4	59.4	49.5	37.3	36.4	31.4	26.7	24.9	20.6	14.2	3.7	1.0	0.4
性別	男性	77	87.7	69.0	67.7	65.2	55.5	56.0	45.2	30.0	33.5	30.8	22.6	26.8	19.9	19.8	2.6	2.1	-
	女性	78	76.1	80.5	68.2	62.5	71.2	62.8	53.7	44.4	39.1	32.0	30.7	23.1	21.2	8.7	4.7	-	0.7
年代別	20代	17	75.2	71.9	75.2	50.5	59.0	79.5	50.5	50.5	41.9	62.4	37.6	50.5	8.6	11.9	11.9	-	-
	30代	28	79.7	88.1	81.7	70.8	66.9	58.7	56.0	36.5	35.6	23.3	37.7	42.2	19.4	16.2	4.1	-	-
	40代	39	78.9	68.0	66.6	73.2	64.3	47.5	45.5	39.4	29.5	27.7	27.2	24.0	27.7	8.9	1.4	1.9	1.4
	50代	36	82.9	75.7	56.5	51.6	58.5	50.7	36.5	38.9	39.2	19.8	16.7	19.8	12.2	16.9	-	2.5	-
	60代以上	36	88.9	72.2	66.7	66.7	66.7	72.2	61.1	27.8	38.9	38.9	22.2	5.6	27.8	16.7	5.6	-	-
世帯年収別	300万円未満	46	86.5	74.6	71.9	69.3	48.0	73.3	57.5	22.8	36.8	41.8	29.5	30.2	24.9	10.6	4.3	1.6	-
	300～500万円未満	35	76.1	80.4	72.5	54.3	68.7	54.3	48.7	44.5	45.1	22.2	36.3	31.4	16.3	12.0	3.2	-	1.5
	500～700万円未満	48	83.7	69.4	64.8	68.7	69.0	51.0	42.9	50.8	27.1	29.0	19.3	19.3	17.5	21.1	4.2	-	-
	700万円以上	27	78.2	77.5	60.8	58.3	73.1	57.1	48.3	28.7	40.5	29.8	22.1	17.2	24.3	11.2	2.2	3.4	-

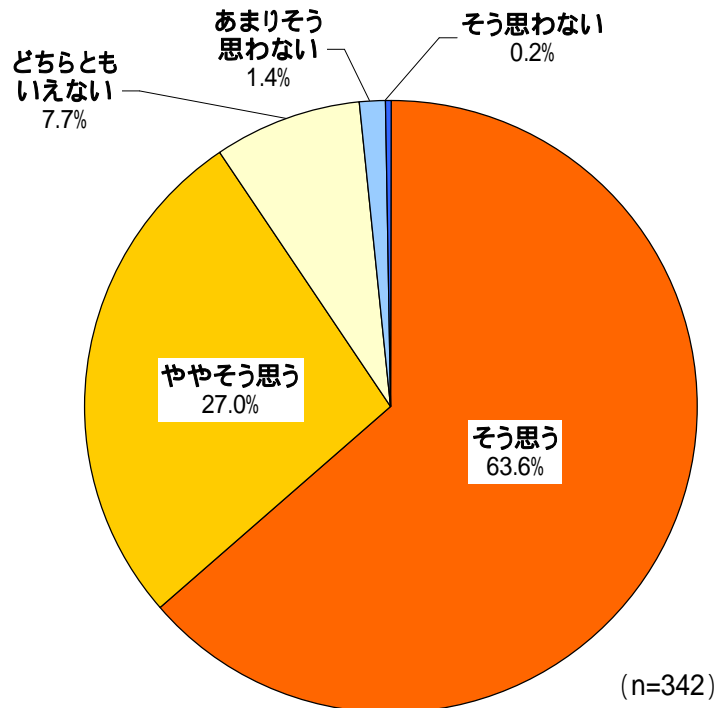
[%]

支出抑制意向は9割を超えている

今後支出を抑えたいと回答した支出抑制意向層(「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた肯定層)は90.6%であり、前月(11月83.5%)に比べて7.1ポイント増加している。

・性別、年代別、世帯年収別ともにそれほど大きな違いはみられない。

今後の支出抑制意向【単一回答】



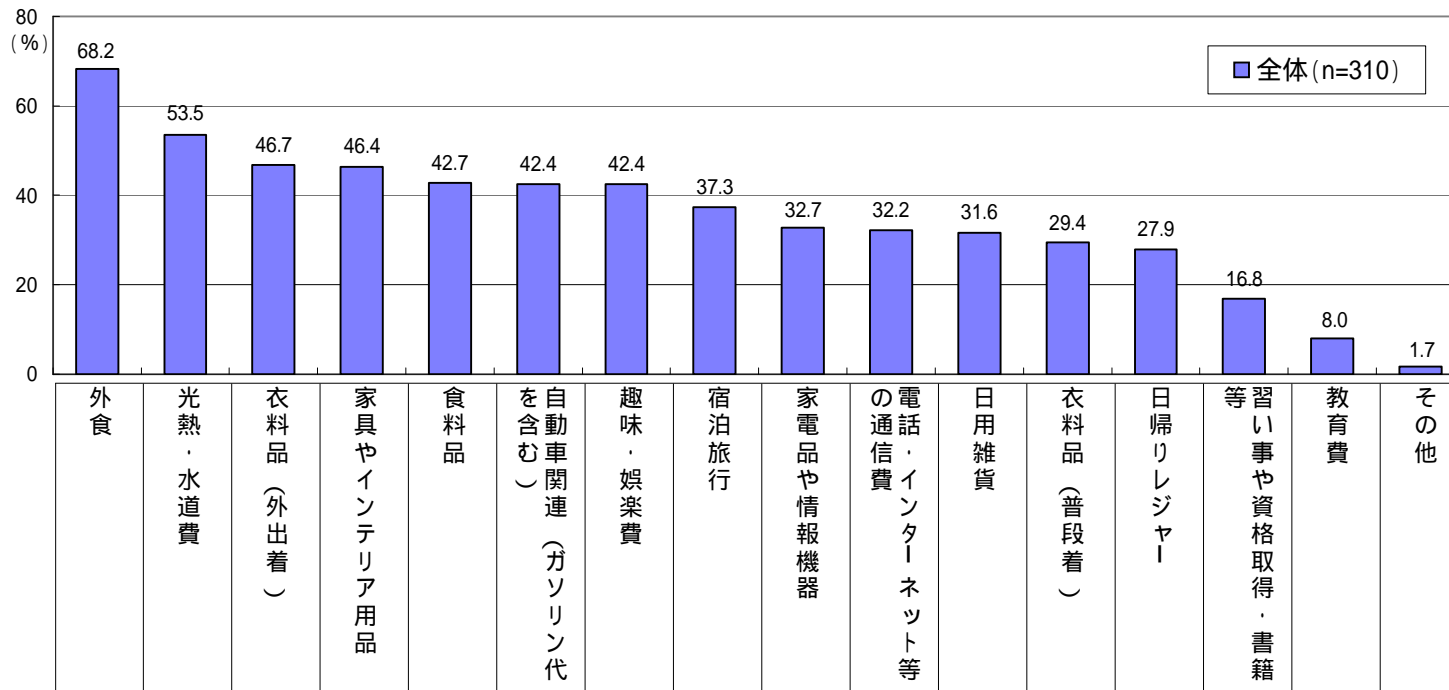
	調査数	[%]					[%]	
		そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	肯定層	否定層
合計	342	63.6	27.0	7.7	1.4	0.2	90.6	1.6
性別								
男性	162	58.3	31.9	8.0	1.4	0.5	90.2	1.9
女性	180	68.4	22.7	7.5	1.4	-	91.1	1.4
年代別								
20代	60	74.4	19.9	5.7	-	-	94.3	-
30代	72	60.8	32.6	6.6	-	-	93.4	-
40代	72	64.7	25.1	6.1	3.1	1.0	89.8	4.1
50代	72	59.2	26.5	10.9	3.5	-	85.7	3.5
60代以上	66	60.6	30.3	9.1	-	-	90.9	-
世帯年収別								
300万円未満	93	68.7	21.8	9.5	-	-	90.5	-
300～500万円未満	77	74.0	21.0	4.1	-	0.9	95.0	0.9
500～700万円未満	96	62.4	30.0	6.0	1.5	-	92.4	1.5
700万円以上	76	48.3	35.9	11.4	4.3	-	84.2	4.3

今後支出を抑えたいもの、「外食」が7割近くに上る。なかなか抑えられないのが「教育費」

支出抑制意向層が今後支出を抑えたいものは、「外食」が68.2%で最も高く、次いで「光熱・水道費」53.5%、「衣料品(外出着)」46.7%、「家具・インテリア」46.4%、「食料品」42.7%の順である。一方で「教育費」は8.0%にとどまっている。

- ・性別で見ると、女性は男性に比べて「食料品」「衣料品(普段着)」「日用雑貨」の割合が高い。
- ・年代別では、20代は他の年代に比べて「電話・インターネット等の通信費」の割合が高く、30代・40代・50代は「宿泊旅行」「日帰りレジャー」の割合が高くなっている。また、50代は「趣味・娯楽費」、60代以上は「光熱・水道費」「衣料品(外出着)」の割合も高い。なお、年代が上がるにつれて「家具・インテリア用品」の割合が高くなっている。
- ・世帯年収別では500万円未満で「外食」、700万円未満は「趣味・娯楽費」「家電品や情報機器」「日用雑貨」、300～500万円未満では「衣料品(普段着)」の割合が高い。また、世帯年収が下がるにつれて「食料品」の割合が高くなっている。

今後支出を抑えたいもの【複数回答】



5. 支出の抑制意向

今後支出を抑えたいもの【複数回答】

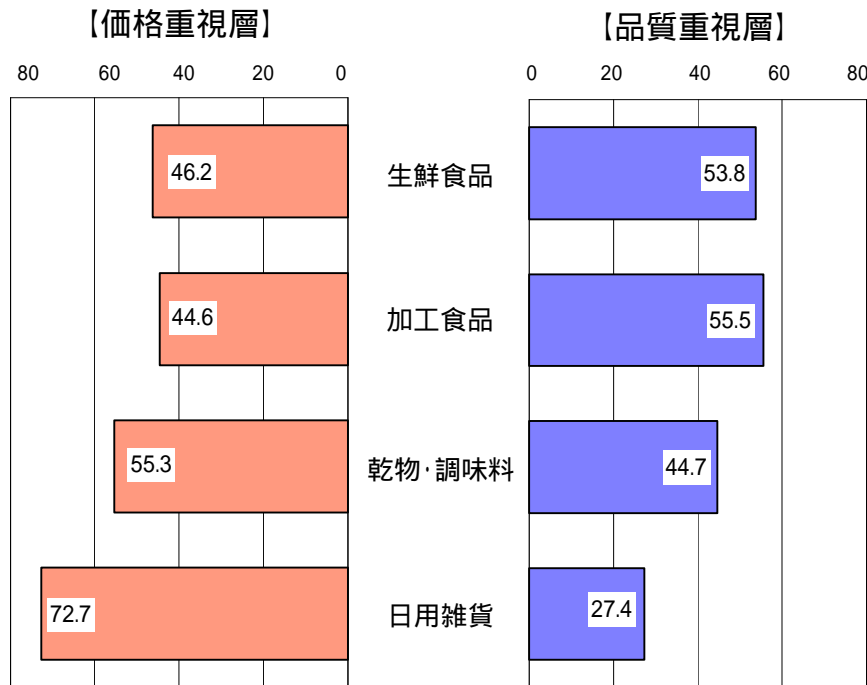
		調査数	外食	光熱・水道費	衣料品 (外出着)	家具やインテリア用品	食料品	自動車関連 (ガソリン代を 含む)	趣味・娯楽費	宿泊旅行	家電品や情報機器	電話・インターネット等の 通信費	日用雑貨	衣料品 (普段着)	日帰りレジャー	習い事や資格取得・書籍等	教育費	その他
合計		310	68.2	53.5	46.7	46.4	42.7	42.4	42.4	37.3	32.7	32.2	31.6	29.4	27.9	16.8	8.0	1.7
性別	男性	146	70.3	49.5	42.5	45.7	37.7	45.4	45.3	35.1	32.7	29.1	25.9	20.9	25.7	13.1	8.1	2.7
	女性	164	66.4	57.1	50.5	47.1	47.2	39.8	39.9	39.2	32.7	35.0	36.8	36.9	29.9	20.2	7.9	0.9
年代別	20代	57	78.6	58.4	34.8	32.5	48.5	38.6	41.9	25.9	23.9	48.5	38.9	32.5	23.3	16.3	8.6	7.1
	30代	67	63.2	49.7	29.8	42.8	42.5	41.1	45.3	40.4	37.7	36.6	34.9	25.2	33.6	12.9	2.5	0.9
	40代	65	75.7	49.4	44.9	44.9	49.4	44.6	34.8	41.2	28.0	22.9	26.6	29.4	33.0	17.2	9.1	-
	50代	62	67.5	48.0	52.1	54.7	36.6	44.0	53.5	44.1	39.7	34.1	28.3	33.5	31.4	27.9	16.8	1.4
	60代以上	60	56.7	63.3	73.3	56.7	36.7	43.3	36.7	33.3	33.3	20.0	30.0	26.7	16.7	10.0	3.3	-
世帯年収別	300万円未満	84	73.8	56.2	47.7	44.9	53.2	35.1	46.3	33.2	36.7	39.4	39.5	28.8	27.6	15.9	7.7	5.7
	300～500万円未満	73	74.3	57.0	53.4	46.7	48.3	50.0	45.5	38.1	37.6	34.1	33.5	40.4	37.1	19.8	9.1	-
	500～700万円未満	89	59.6	50.0	43.8	48.5	34.0	47.5	45.9	42.6	32.7	31.3	33.4	22.0	21.7	15.9	7.7	-
	700万円以上	64	65.8	51.0	41.7	45.2	34.6	36.2	29.1	34.4	21.7	21.7	16.6	27.7	26.2	15.8	7.5	0.9

安全性を意識しているためか、食品では価格重視派と品質重視派が拮抗。日用雑貨では価格重視層が7割を超える。

食品や日用雑貨購入時に重視するポイントについて、生鮮食品と加工食品では品質重視層の割合のほうが高いが、乾物・調味料や日用雑貨では価格重視層の割合のほうが高くなっている。

- ・全項目で、性別では女性、世帯年収別では世帯年収が増えるにしたがって品質重視層の割合が高くなる傾向がみられる。なお、年代別では、最も教育費がかかる世代でもある40代で価格重視層の割合が高くなっている。

食品や日用品の購入意識【それぞれ単一回答】



(n=342)

	調査数	生鮮食品 [%]		加工食品 [%]		乾物・調味料 [%]		日用雑貨 [%]	
		価格重視層	品質重視層	価格重視層	品質重視層	価格重視層	品質重視層	価格重視層	品質重視層
合計	342	46.2	53.8	44.6	55.5	55.3	44.7	72.7	27.4
性別									
男性	162	51.2	48.8	51.8	48.2	62.2	37.7	75.1	25.0
女性	180	41.9	58.2	38.0	62.0	49.0	51.0	70.6	29.5
年代別									
20代	60	54.5	45.4	43.1	56.9	60.6	39.4	76.5	23.5
30代	72	51.0	49.0	48.8	51.1	54.7	45.4	72.7	27.3
40代	72	55.3	44.6	54.1	45.9	68.8	31.2	81.2	18.8
50代	72	40.1	59.9	44.9	55.1	49.7	50.2	66.3	33.7
60代以上	66	30.3	69.7	30.3	69.7	42.5	57.6	66.7	33.4
世帯年収別									
300万円未満	93	54.7	45.3	50.3	49.6	58.9	41.1	71.0	29.0
300～500万円未満	77	53.1	46.9	49.1	50.9	56.5	43.5	78.1	21.9
500～700万円未満	96	42.7	57.3	41.0	58.9	62.8	37.2	77.0	23.1
700万円以上	76	33.4	66.6	37.1	62.9	40.0	60.1	63.8	36.3

* 価格重視層：「価格を重視する」、「どちらかという価格を重視する」の合計
 品質重視層：「品質を重視する」、「どちらかという品質を重視する」の合計

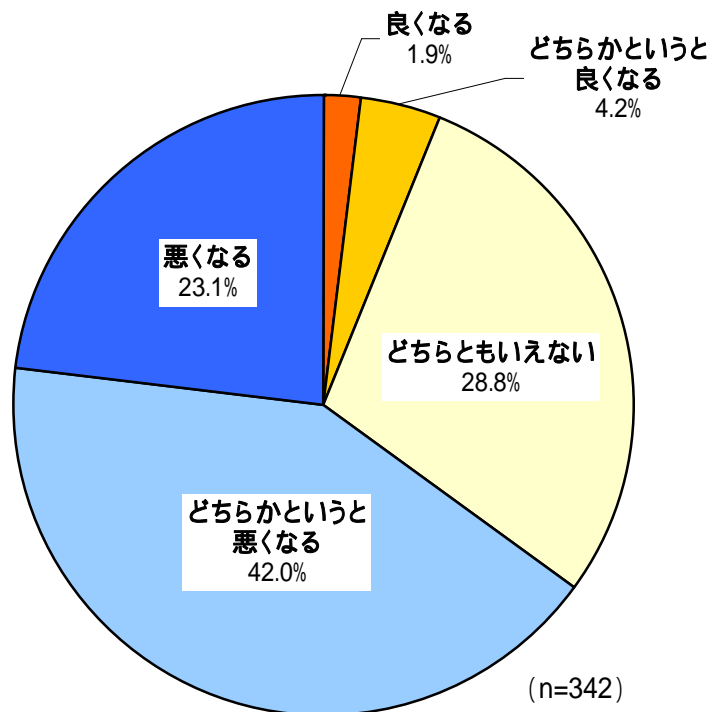
7. 今後の福岡の景気

今後の福岡の景気に対しては悲観的な見方が6割を超えている。男性や40歳代以上でその傾向が顕著。

今後、福岡の景気が「悪くなる」または「どちらかという悪くなる」と回答した悲観層は65.1%で、「良くなる」または「どちらかという良くなる」と回答した楽観層6.1%を大きく上回っている。なお、前回(2008年8月)の調査では悲観層の割合が47.4%であり、この4ヶ月間で悲観層が20ポイント近く増加している。

・性別では男性、年代別では40代以上で悲観層の割合が高くなっている。

今後の福岡の景気【単一回答】



	調査数	[%]					[%]	
		良くなる	どちらかという良くなる	どちらともいえない	どちらかという悪くなる	悪くなる	楽観層	悲観層
合計	342	1.9	4.2	28.8	42.0	23.1	6.1	65.1
性別								
男性	162	1.9	5.1	21.3	43.6	28.1	7.0	71.7
女性	180	1.8	3.4	35.5	40.5	18.7	5.2	59.2
年代別								
20代	60	1.2	-	41.2	47.3	10.3	1.2	57.6
30代	72	2.0	9.4	38.1	32.1	18.4	11.4	50.5
40代	72	3.1	5.8	24.1	40.4	26.6	8.9	67.0
50代	72	-	4.8	26.2	43.3	25.7	4.8	69.0
60代以上	66	3.0	-	15.2	48.5	33.3	3.0	81.8
世帯年収別								
300万円未満	93	3.8	4.2	28.4	44.3	19.3	8.0	63.6
300～500万円未満	77	1.9	0.7	32.9	41.2	23.3	2.6	64.5
500～700万円未満	96	0.6	8.7	26.5	37.2	27.0	9.3	64.2
700万円以上	76	1.0	2.1	27.9	46.1	22.9	3.1	69.0

* 楽観層: 「良くなる」「どちらかという良くなる」の合計
 悲観層: 「悪くなる」「どちらかという悪くなる」の合計